



# 美術館だより

☎(63)7788

## 平松礼二館「新春—花の饗宴」 3月26日(月)まで

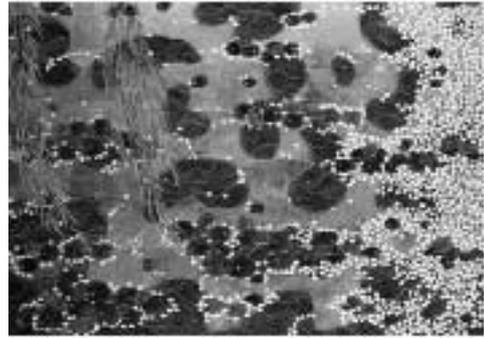
自らを「花ぐるひ」と自称するほど、平松画伯は大の花好きで有名です。それは画面から溢れんばかりに花を描きこんだ作品が数多くあることから也容易に想像できます。

生け花を教えていた母親の影響で「少年の頃から花の名前は数多く知っていた」そうですが、「花ぐるひ」に転ずるのは、鎌倉に画室を持つようになってからといえます。やはり花好きの夫人が育てた花々をスケッチし、作品にも取り入れていましたが、庭を手に入れてからは、自らも花を育てることに夢になっていきました。

日本人は、春夏秋冬に移り変わる自然を肌で感じ、身の回りの花々をこよなく愛してきました。日本画の花鳥風月や山水画は草花をなくしては語れません。現代の日本画を探求し続ける平松画伯が愛してやまない「花の世界」をどうぞご堪能ください。

### 常設館も同時開催

【開館時間】9:00~16:30(入館は16:00まで)  
【休館日】毎週水曜日  
【観覧料】町民の方 大人400円、小・中学生200円



平松礼二「新緑の譜」

## こどもギャラリー

3月13日(火)まで

町内小・中学校児童生徒の皆さんの作品を週替りで展示します。

- ・ 湯河原中学校 1月25日(木)~ 2月6日(火)
- ・ 東台福浦小学校 2月8日(木)~ 2月13日(火)
- ・ 吉浜小学校 2月15日(木)~ 2月27日(火)
- ・ 湯河原小学校 3月1日(木)~ 3月13日(火)

毎月第3日曜日の「家庭の日」は、町民の方は観覧無料です。  
(町民証をお持ちください。)

# 一喜一憂

「去年今年貴く棒の如きもの」= 虚子。  
今年去年の続き、今日は昨日の続き、毎日連続しているに過ぎませんが、一つの区切りとして、年の始まりに当たり自分の目標を立て、今年こそ、今年中にはと願いを込める方もいるのではないだろうか。結果はどうあれ、新しい年、自分で誓ったことを確認しながら実行に移すことも必要だと思います。

「一度きりの人生。一つの道を歩くことも悪くはないが、違う自分を発見する冒険だ」といい。まさに五十の手習い。五十八歳で町長に就任させていただき、三期十二年が終わろうとしています。

財政再建、平成の大合併、地方分権、発生が危惧される大規模地震への備え、ごみ処理に代表される環境問題への取組み等、地方自治体として待ったなしの課題が山積する行政運営は容易なものではないとわかっていても、自ら求めた道であり、得たもの、失ったもの、過ぎ去っていく日々を思い馳せながらも、悔いはなく、これが自分の人生であり、天命であると心に言い聞かせ、急がず、休まず、人と自然、心と心の絆を大切に、温もりのあるまちづくりを目指してまいりました。

いい首長とは、必ずしも人間的にいい人だからというだけではなく、卓越したトップは強いライオンとするキツネの二役を演じなければならぬ。清潔とか正直とかは当然のことですが、それだけが政治家を評価する時の基準だけでなく、勝つ術を知っているかどうか、ライオンとキツネをどううまく演じられるかが肝心である。終わりをければすべてよし。「一生懸命やったけど駄目でした」という弁解は通用しない。だからこそ人間の理性や冷静さ、勇気や情熱がどう生かされるかだと学びながら、多くの人々との出会いによって、人は、優れた人間との出会いによって磨かれる。ダイヤモンドは、ダイヤモンドでしか磨けないように、人は、人でしか磨くことができない、とモウジ様々な機会を得ました。町民の皆様が、行政に求めるものは、「やるか」「やらないか」の二番煎一の答えです。「やるのか」「やれないのか」は、あまり考えてはもらえません。そして、常にやれないことへの不満と、やったことへの批判に悩まされます。

けれども、水に溺れる子どもを救うために先生が犠牲になったり、凶悪犯を捕えようと凶弾にたおれる警察官など、地域の平和を維持するための尊い犠牲があつて初めて、その職責を与えてくれた町民の皆様の負託にこたえられる。それを信条に情熱を持ち続けたことで、嵐の中を突き抜ける勇気が湧いてきたのかも知れません。

まちづくりは、地域に刻まれた歴史、文化、美しい景観を総合した住民生活が、そのまちな個性になるものであり、観光地として目指すものは、もてなしや訪れるお客様に頼る外部依存型だけではなく、自然環境の中の豊かな暮らしがが町の中に息づいてこそ、継続的に人々が訪れてくれる。四季彩のまちづくりは、このまちが、季節を問わず心癒される故郷であるからこそできたもので、私は、それを借り受け、政策に生かしてきたに過ぎなかつたと振り返っています。

木登りの名人は、弟子を高い木に登らせ枝を切らせる時、危険なところでは何も言わず、木から下りる際、もう大丈夫というところで「気を付ける」と声を掛けるそうです。もう安全、そんな心がミスを起こすという教訓だと思えます。  
今、一本の木から下りる時に差し掛かる私は、名人の言葉を心に刻み、慎重に、行政運営に努めてまいります。  
天が与えてくれた仕事に感謝しながら。

町長  
米岡幸男

